

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 23 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	澤 新一郎	会員番号	0022820
申請者の所属・職名	国立成育医療研究センター 生体防御系内科部・免疫科		
出席会議名	World Immune Regulation Meeting -VI		
発表論文タイトル	Intestinal homeostasis regulated by RORγt+ Lymphocytes		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り、誠にありがとうございます。私は 2012 年 3 月 18 日から 21 日まで、スイス連邦のダボスにおいて開催された World Immune Regulation Meeting に参加し、“Intestinal homeostasis regulated by ROR γ t+ Lymphocytes” の演題にて Work Shop で口頭発表して参りました。本学会は今回で 6 回目となるヨーロッパ版 Keystone シンポジウムというべき免疫学会であります。私はフランス・パスツール研究所在職中の 2008 年（第 2 回）に参加歴があり、今回で 2 回目の参加でしたが、参加者の増加、セッション数の増加に驚かされました。今回の大会大テーマは “Innate and Adaptive Immune Response and Role of Tissues in Immune Regulation” であり、私がパスツール研究所で 2006 年から 2011 年まで主に取り組んできた“自然リンパ球”に関する研究発表が多くなされました。自然リンパ球、特に IL-22 を産生する ROR γ t 陽性自然リンパ球研究が、フランス、オランダ、ドイツ、イギリスの研究グループを中心に進められたこともあり、これまでの自然リンパ球研究の総論的な内容から、最先端の研究結果までレベルの高い発表が続きました。私達が同定した ROR γ t 陽性自然リンパ球の制御機構や腸炎、気管支喘息、感染症における機能に関する興味深い研究がポスターセッションでも発表されました。H.Spits らの研究グループはヒト炎症性腸疾患における自然リンパ球のサブセットの同定を試み、ヒト疾患における粘膜局所の免疫細胞として、自然リンパ球機能解明が急速に進められているとの印象を受けました。

また、学会参加前 1 週間を利用し、前任地であるパスツール研究所（パリ）に立ち寄りしました。スーパーバイザーであった G.Eberl 博士や元同僚達から、私が帰国後開発を手がけている新規トランスジェニックマウス作成に関し、貴重なアドバイスを頂戴することができました。

今後は、日本発の自然リンパ球研究を世界に発信してゆきたいと考えています。